

【自然観察路情報】 観察された生きもの

2022年1月20日（木）10:00~12:00



《野鳥》ハシブトガラ、シジュウカラ、キバシリ

コゲラ、アカゲラ、オオアカゲラ、ツグミ、ヒヨドリ、ノスリ
オジロワシ、トビ、オオセグロカモメ、オオハクチョウ、マガモ

※どちらも頭部の赤い部分は、メスは黒い

《植物》【実】ハンノキ、ツルウメモドキ、カラコギカエデ、イボタノキ、ニシキギ

《その他》エゾシカ、ツリガネダケ、コフキササルノコシカケ（きのこ）、エゾシカの毛雪上の足跡（キタキツネ、エゾユキウサギ、エゾシカ、エゾタヌキ、エゾリス、キジ）

【水鳥カウント調査結果】

2022年1月14日（金）15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類

* () 内は個体数、(+)は以上、(±)は「前後」の意味

ヒシクイ (1羽)、コブハクチョウ (2羽)、オオハクチョウ (17羽)、ヨシガモ (10羽)

マガモ (1羽)、ミコアイサ (2羽)、ダイサギ (2羽)、トビ (2羽)、オジロワシ (2羽)



コブハクチョウ



オオハクチョウ



マガモ



ヨシガモ



ダイサギ



オジロワシ

2月の自然予報

雪上に、ウトナイ湖の生きものの足跡などが見られるかもしれません



キタキツネ



エゾシカ



エゾリス



結氷したウトナイ湖上にいるのは？

オオハクチョウだんご

頭をうずめて、丸まっているオオハクチョウが見られるかもしれません。



ワシタカ類やカラス

氷上にたたずむカラス類やトビ、オジロワシやオオワシが見られるかもしれません。



ウトナイいきもの図鑑

【ノスリ】

全長約 52~57cm。翼開長約 120~140cm。
北海道では留鳥だが、ウトナイ湖周辺では冬に多く観察できる。ネズミ類、鳥類などを捕食するため、ウトナイ湖周辺の木にとまっていたり、上空を飛行していたりすることが多い。



トビなどに比べ全体が白っぽく、胸から腹部にかけ、黒褐色の斑がある。

ウトナイ検定

*ウトナイ湖に関するクイズ
毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。
あなたもウトナイ博士になれる?かも。

**Q. 私たちにはとても寒い2月。
ところが、ウトナイ湖の自然はすでに春のきざしが！
ウトナイ湖の春の兆しはどれでしょう？**



(あ) 夏鳥のキビタキが到着する

(い) 留鳥ハシブトガラのさえずりが聞こえる

※さえずり：メスへのアピール等で出す声



ハシブトガラ



フッキソウ

(う) フッキソウの葉が緑色になる

答えは最後のページです。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

ウトウ

体重 456g



初診時の様子



右足が腫れている状態。検査で大腿骨の骨折が認められた。

原因：人工物への衝突疑い

12月8日 市民が港の岸壁でカラスに襲われていたところを保護し、魚を与えながら様子を見ていたとのこと。魚は食べなかったが、元気になってきているようだとのことで、センターへ搬入。

↓

12月10日 初診にて、右足の腫れを確認。レントゲン検査で右大腿骨の骨折を認めたが、歩行や水面での動きが可能ことから栄養補給のために小魚を給餌した後、海へリリースとした。

○ リリース ○

ウトウ（チドリ目 ウミスズメ科）全長38cm
雌雄同色で、大型のウミスズメ類です。夏羽では、顔に白い飾り羽による2本の線と、嘴のオレンジ色と上嘴基部の角状の突起が特徴的ですが、冬羽では嘴の色が鈍くなり、上嘴基部の突起や顔の白い2本の線はほとんど目立たなくなります。水中を潜水し、魚やイカなどを捕食します。



【ボランティア体験 講座】2月20日(日) 10:00~12:00

～ウトナイ湖の自然情報収集調査体験～ 冬に見られるウトナイ湖の自然 編

ウトナイ湖にどんな自然があるかレンジャーと一緒に調査しませんか。
周辺の自然観察路を1時間30分ほど歩く予定です。
自然観察が初めての方も、お気軽にお申し込みください。



対象：高校生以上 定員：10名(先着順) 参加費：無料
申し込み：2月1日(火)9時～18日(金)17時まで。電話で当センターまたは直接窓口へ

【ウトナイ湖・冬の野鳥ウォッチング】2月23日(水) 10:00~12:00

室内でウトナイ湖の説明をしたのち、歩きやすいコースで自然をご案内します。
林の野鳥や、水辺の野鳥の他、この時期ならではの雪上の足跡も見られるかもしれません。



対象：どなたでも(小学生以下は保護者同伴) 定員：15名(先着順) 参加費：無料
申し込み：2月1日(火)9時～22日(火)17時まで。電話で、当センターへ



【ウトナイ湖・楽しい春の自然観察ツアー】3月6日(日) 10:00~12:00

日々調査活動などを行っている当センターのボランティアチームが春のウトナイ湖をご案内します。
この時期はオジロワシやオオハクチョウ、運が良ければシマエナガも観察できるかもしれません。
スタッフも多く、楽しい観察会です。



対象：どなたでも(小学生以下は保護者同伴) 定員：15名(先着順) 参加費：無料
申し込み：2月1日(火)9時～3月4日(金)17時まで。電話で、当センターへ



市民ギャラリー 傷病鳥獣救護記録展 開催中～2022年2月27日まで

今年1年間で保護された傷病鳥の一部をパネルでご紹介します。
展示とあわせて、クイズラリーも開催しています。

クイズラリーは
参加賞も
ご用意しています!



◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。
このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。
また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時～午後5時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

